湖月抄

玄のえん

花宴

花

詞をいひて名とす、但巻の初めは南殿の櫻の宴せ
させうふとありて、奥の二条の后の宮の春の花の宴
とのふとあれはいとよつゝて巻の名と花の宴といふるゆゑと
なるとゝ、古集花の宴とは櫻と桜事とをいひつゝ作ろう（花）
、禁中の事也、されと私の家に宴なれと花南殿の櫻の宴とも
て名目とせりとあるへきさかり　義云　巻名南殿櫻宴事也則花
宴也　細　唐土よりは花と云へは牡丹、日本にては花とゆふは櫻也、櫻宴花
宴の名別あるへしゝ、　孟　此巻は紅葉の賀の次のとしの春也
源氏十七歳、宰相中将三位也　細　晩日　花宴之例、文　花　國史云弘
仁三年二月辛丑幸神泉苑、覧花樹命文人賦詩賜綿有差云
花宴、盛觴也、又云桐壺帝と醍醐と準ずるなり、彼御
宇花宴と仍あるなれ、寛平延喜十七年三月六日常寧殿花宴
詩題、春夜翫櫻花、延長四年二月十七日清涼殿花宴詩題、櫻

繁春日鉢此両度之例よハ[illegible]ん〜[illegible]ん探韻作文[illegible]
[illegible]ハ[illegible]南殿花宴例事[illegible]紀[illegible]上天皇康保二年三月橘樹
於南殿有花宴詠古詩誦新歌[illegible]此時ハ探韻なとハなり
〜[illegible]も南殿の橘を御覧の例也又醍醐の世の後[illegible]事な
[illegible]より雅授より川[illegible]

[illegible]〜[illegible]の[illegible]
年二月十七日の宴[illegible]の
雅授より南まり醍醐[illegible]門
延長八市代の事也今この花
宴も相違の市代の事也
二月[illegible]余日も[illegible]て延長[illegible]
叶つり 河 南殿橘紫震殿
の[illegible]より是大略草創
[illegible]の樹[illegible]貞観[illegible]枯と
[illegible]も根[illegible]
[illegible]
枝[illegible]盛[illegible] 師[illegible]尤近
の橘と云是[illegible]今も紫震
殿の[illegible]
拾芥抄中[illegible]作南殿前庭
櫻樹着本是梅也桓武天
皇遷都之日所殖植也而
及[illegible]和[illegible]中枯失仍仁
明天皇被改植也[illegible]
花延喜の帝常寧殿の
花宴も宴席と八清涼
[illegible]
[illegible]の花の事も南殿乃

[illegible]〜[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ハ清涼殿よりつゝ世のてをとれりつゝ事とも侍べしと

右衛門督　細　右ハ右衛門督ハ朱雀院ノ右ハ右西ノ方ノ　明　花宴延長の例

右衛門督

南殿の桜の事和也　右ハ右ハ右ノ方ノ

やうにて清涼殿よりはゝ世給てとゝ給へ　[illegible]

ていそのさうりわりてきゝ

こゝそんの女院　細　右ハ右ハ右ノ方ノ

日いとうくれて　細　附長の事也　[illegible]

ふくみまて絶えの事也　[illegible]

[illegible]

[illegible]

式部卿の宮の御子におはしますなり　細天暦の例なり　長保元年
樂とゝのゝ　孟　長保元年調大曲新樂
源氏の中納言の家　細　紫の家の家の子なるべし
の山吹をゝ
長恵の家ぶ　源氏
長恵の家ぶ　源氏
平　源中納言の家の家ともいふ
一さゝ　細　長恵の家は朱雀院
源氏の家を　源氏
家伺の家ともみゝ
長保元年調の末と年号
と云ふ　義同
花の中に　細　菱上よりふさ
ゝゝぬとゝゝむゝ
どゝもゝのゝもゝ
もれぬ
源中納言　細　紫
家のはゝ源のゝゝの
かれば何とゝゝとゝ
わゝゝ
ゝゝゝ　細　柳花苑上
古八葉あり今八葉絶也
河或院云此樂新國八婆羅
門僧正持来形女也其姿如

ゝゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝゝ

そ[illegible]のうへよりかを[illegible]れよ
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

てをまくのちりをゝ戒法よりそうの門よりそへ人のあやまちはありて不西のゝはれと人の事
よゝびをゝとゝろくゝろ和ゝ　河新古てりもちゝりしてぬ玄の表乃勝月よりてゝりのそるゝ春よ里
勝月和ゝ　仰　ゝりのそるゝと本人ゝろくゝ仏事紙よゝろゝの春ありゝこの字不用せゝ　暁　ゝハ数の頃よ
こなゝさ海よゝろりのゝ　孟こるゝさ海よハとゝ本和ゝ　仰　仏事ゝ海よゝろゝとゝろゝくへし　物の字ハ事れ
あゝゝゝ　仰　保のゝ多ゝ方へ多ゝくゝこなゝさ海よゝろゝとゝろゝくへし　物の字ハ事れ
ゝろゝものハとゝ一物の字よ和れ
ゝろゝ和の　細　ゝろゝよゝびもゝけゝゝハ和ゝろけ　保　ゝろゝ和の表とゝろゝも入月の地ゝろけ
を世ゝの寺を吟ゝゝろハ月
の表を与ゝ世ゝ白ハを之
下の白入方の和ゝ月をゝ
やゝりゝを表の和ゝろけ
ゝゝぬとゝろゝや　仰　仏
和のゝ和ゝろゝ仏ハゝを
よ保ゝ表ゝのゝしゝ
ゝろハみゝよゆゝゝれ
細　保の自筆よハゝゝ人
よゆゝゝれゝと計暑よ
の結ゝ仏人よすゝ
のゝあゝし　暁　保氏の自撰よ
ゝゝ仏氏よそれぬゝを女
よゝゝせんゝゝゝ考の
詞　仰　仏氏憲皆女の
ゝゝゝゝゝゝ勝月和

ゝゝ独ゝゝを結
ゝゝゝゝゝゝ
女ハ火ゝもゝで八表ゝを
ゝゝ記よゝゝ乃の
表ゝ和ゝゝゝゝ名ゝ女
のゝゝゝゝゝゝ詩ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なれぬいと六の君なりけんとこそ乃
かのるに郎中ねのもとめぬ四の君かどこそ
せられぬ（暁今京の女も源の心さもあれとも中くとハ）
まこそ中くそれなりまりくハの心ち
まるんとあるをいとゆう
をあるべいるよりうちねむ祖も
まげみるもとれる程のごとなるわくもり
なりつるにいるれどとよとすべきさ海
ををくへどなりめんなどとりげよ思ふ
もをのとまりなるべしやうなりよけても
まげみるもとれる程のごとなるわくもり
るつやとあるうるもひるべられまふ

（孟春月和尚六君）

七十五

方ハ世ハ女方ろくしき
るのなりをあるうるをこ
ろくんるるこ花をハ中夫
の出車とをあつのハ
るハ事まあり花くハ養上
の色すを（暁花大臣のまろ）
養上なりのを海のあくふに
るく源氏の御ふよ表無
とをとりくりまるる
ろくくり
るの日ハ後ろん（細ろ後朝の儀）
（花ハ後宴くを名月）
ハ男騎ヤの後三月ふ
の借あるるをとをそれ
と花宴よるりなるをを
ごをんのるる花の書れ後あ
しるるをしの
のあるるの（細ろえよ右大
臣の女亜の系統ハ源氏）
（しをそるるる花の書れ後あ）
（孟春月和尚）

を日ハ後宴のことありてまぎれくる
後朝（細源の花ハ後）
の聚つくるまるる後朝用ひくる
るるハれ面白
暁（細上の後朝）
ちるんとをるををめてひるるめ
まなるるるよ惟光（良清し）とつけてうるハ
せるひるれハ（細源の退およ惟光良清ハ）（暁日）
よくて今ハのるるし
るる車どもまるるる

[illegible]の息さち之 細勝月夜
の見物也
いるめていづれとそらん
細 又六の君はいづれとそらさ
ざめどさきとく
ちくせくなし 細 又年
の宮殿てこちくしく言
へさもいとと 西右大臣
のまゝまそて源氏をびこよ
とうんなどくありていと
姫君いとよ 細 紫上の方也
上の御よつくくなりめふ
しまふとあるうう姫君
うをを四月[illegible]
橘のえしぐるね 細 檜扇
也物よてくうり 明 他本
三重うくゆとを三重表紙
三重の字なし 右大臣
八橘の三重りうね 義云今
業橘の薫侯 西白裏薄
紫也 [illegible]の扇をひろけて
やうちとえく 何 [illegible]
云ゞ松葉ゆかまめとき

[illegible]て、ろ海三どうり伊はとうこ[illegible]ゆ
をむねうつぶれ浜いくめていづれと云
うんちく地ぐなどうてぐしうりて
るうれんもいとまやまうぐ人のありさ海よ
くうんさぐめねねぐいどづうるべさ
まとて[illegible]ぞあうんどさいとくちれ
うべきれいるせまうと地ぐ[illegible]ひて
ぐくとなどぐ地んみうち姫君いるつまぐ
うんゆ[illegible]ゆかれいぐてやあんしらて
地ぐ海うのちうの扇ぐうのくへぐね
細業の素どさ方ようてめる月とうて[illegible]よ
めて[illegible]
うしうぐへめうれうとゆへうれし

りの三重ゆくつ[illegible]の扇ゆ[illegible]
うとやうめくつくて色くの糸ゆくう
も同風傳云
世よ[illegible]ゆ 細 源氏の中也
秀逸云 文字詩文如云
[illegible]
西白一名 右水傳正年
月白の月の明来をゆめ
てぞ世ちの陰いさくべか
[illegible]
まてて源氏さハ何とも
年也 後成云 源氏ゆ
らん年ようこ名のの
とうり 又ゆめえんの巻
ちくくよくれて歎る
る奏くものくまつり 孟世
よたくねとハ世る分別な
きとなり

世くこの[illegible]
細 若よ地之若山公のまくを
しへうくんとわつ何をうけ
てさやうくバ男方なゞめ

[illegible]ゆ
うとくくくて[illegible]
も[illegible]
うりてゆくうくうよりくへハ
西のくゆ
孟原寺
世よ[illegible]ぬこてちくそとれちゆの月
のり来とを[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

まろ人なれどそこ人あんしつこ
やまぢらんとぞもそうちうこきれば
ごろのこものごろ。はこ（細つく法をこそひ法をあれ法をこそひ法をあれ法をこそひ法をあれ）
らていぐ法を例のとぐらう。
とぐ。今くいとうかなしいこ（細蓼こ）
ちこひうこのくくいこ。ひまいこ。ぢれいこのあはぎいの
くいちうこひまいこ。ぢれいこのあはぎいの
ここふいりんし法をず。つまぐくこと（ほんく）
ぢ光（なが）ぢめうこ。これてこ（琴）このこ（琴）こと。ぢきこ
つまて。ぢうこ。ぢめう。ぢ。ぢいうこ。ぢめう。ぢ。ぢいうこ。ぢめう。ぢ。ぢい

[illegible]

[illegible]

[illegible]

延喜二年三月廿日廿日左大臣花宴舎藤花下に有献物事歌　花

へて左大臣の亭ふく春の花乃宴あり、又天暦三年四月十二日花香舎藤花宴よい和歌

曽続あり

ちのちりぬん　細　西白キ　明　平方後そ

みさち古今よ　月ろ人もるさ山ざの藤花あのちうん後ぞこうの海

人ちろ　春古今　新古今　ふのちうん後そ　ちろい花よりひと

奇の羽まろさ　ちもとちろくうけろ　生家　新の手ハ　ちくいに羽後ちうかう

とえし　ちりいこま山いさ　ひ歳よりろ雲のうちて　ちのの

の雲ちくしそとうろ、雲をひあちろ　ちアればやそ　ちろ歳と　ちをしりてん後

うの羽よ相似ちやうなれ　ちをつねちろれど　春の後より後ん　方方後氏を

を一身ちろい　ちなとよ　ちんみへ　ちまん　ちくいろ　ハ字方平後を見つちやう　とちく

ぢしていろぐとちりみへ　ちればいちろ　ちろ花人のくみちろ　ちつ後ちく

えさちの後をぞの日　細　弘徽殿の後の後　曙　弘徽殿の方ちう

の後　堂表　着左大臣家　てちてう　梅　四　雲　月の雲ちの　ハ月ちうと

とりの後ちのちやうちのくやうちくく　後の事ちを　いはず

のちうりちくみ　ちう　ちうちう　後氏の君みも　一日

みくれしちういめんのつぐよ　ちうて後

つど　ちちせねばちちゆ　河　光栄　ちうと

笑　てれこの四後ハ後をそ　ちう後

歌　左大臣　わが宿の花しけんべてのちをばかりよう

ちうに　ちを　後の藤カリよ　ちをちく

みくうん　天ハ　ちをよ　ちうよ　ちすう後

とわちうを後ちく　わづ　ちうりかりちりや

ちうをよ　ちう　ちん　ちこ　ちうけ　ちも　ちあ　ちく

なんべ　ちのうを海　ちいと　ちあ　ちう後ちを

の後ちんだ　後の後　ちう　ちひ

いちう　ちう　ちねづ　ちうん　ちてぞ　ちうり

後ちうの　唐　蒲　ちえ

ちめのちう　ちづ　ちうね　ちうい　ちひ

澄　家　細　ちんいう　ちのう　ちねり　ちあづん　ちう

てちんいの後　細　ちづけ　ちを後　ちう

発　後ちの姿　ちう　ちうと　ちうと

月ちうみ　ちてづ　ちこの　ちう海　ちう　ちう

ちうの花　細　ちう

ちうちの　我宿の花乃

なるちうりぬ　ちう

細　後ちの花をかめちう後

ちりちをわちう　ちを後

花　後の方に我宿の花

をかめちうやうなちをわ

いをちうちう　ちを人

のちう人　ちうと　細　後の光

女　後ちう　ちを後氏ちうに

いちう後ちうちをつづそ

らちうちう　ちくちう後

と後教訓ちう　曙　後氏

氏の後姉妹の女ちう

ちおちうちうれいなん

のちまちう後ちうれ

とちう後ちうとづなし

と後中ちうぬちう

なれづちう　なちうあ後ち

ちんの

ちうちのきれ　細　蕾

ちうちうちうちうちを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

細 あるこに公ハ二面ハ扇のうとハ云へ人ハ今ハ也 光 いとれとそ云ぬ人ハ源氏ものひ給ふ人ハ
人ハ云ふ所ハ云ふ所ハ云ふ人ハ河の所ハ云ふ所ハ第とハ云ふ 光 扇をハ云ふ人ハ云ふ所ハ第の中ハ
ハ人ハ云ふ 細 今日ハ云ふ人ハ源氏ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ
あ御さう 細 今日ハ云ふの紙 一月のうぐいすハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ
れ御詠あり一日の戸口ハ云ふ 細 こてハ云ふの紙ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ
ふ光ハ云ふの紙の日ハ云ふ 勝月 よの紙ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ
入ハ云ふの心ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ
ハ云ふの紙の紙ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ
ハ云ふ 勝月 ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ
ハ云ふ 細 ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ
ハ云ふ 細 ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ
ハ云ふ 勝月 ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ
ハ云ふ 細 ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ
ハ云ふ 勝月 ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ
ハ云ふ 細 ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ
ハ云ふ 勝月 ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ
ハ云ふ 細 ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ
ハ云ふ 勝月 ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ
ハ云ふ 細 ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ人ハ云ふ